

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 三室 中学校）

学校番号 216

【様式】

目指す学校像	○自ら学ぶ生徒の育成 ○心豊かな生徒の育成 ○健康でたくましい生徒の育成 教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、生徒どうしが互いに磨き合える、明るく活気のある学校を保護者や地域の方と いっしょにつくる		
重点目標	1 生徒一人ひとりの可能性を伸ばす「個別最適な学び」の充実 2 生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実と安全な学習環境の整備 3 学校運営協議会を核とした持続可能なスクール・コミュニティの構築 4 協力して明るく活気のある学校づくりを目指す力のある教職員の育成		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和7年2月21日
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	<現状> ○学校評価における「授業に集中し、自ら進んで学習に取り組んでいる」に係る肯定的な回答の割合が9割を超えている。 ○学校評価における「分かった、できたという学習への満足感」に係る肯定的な回答の割合が9割に届いている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、国語・数学・英語ともに「思考・判断・表現」について課題がみられる。特に数学の記述式問題に対して無回答率が高いことが、課題である。 ○学校評価における「宿題や復習等の取組」に係る質問に対する生徒の肯定的な回答が7割に満たない状況にとどまっている。	・生徒一人ひとりの可能性を伸ばす「個別最適な学び」の充実	①全ての生徒にとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れて授業づくりを推進する。 →さくら草特別支援学校と連携して講師を招聘し、教師一人ひとりの授業改善を図る。 ②「三室中 GIGA スクール」を一層推進し、個別最適化された学習指導の充実を図る。 →研究推進委員会及びエバンジェリストを中心とした検討・改善 →ICTを活用した自分の考えを自分の言葉で伝える活動の充実	・学校評価「学習への満足感」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が以前学校運営協議会で御指摘いただいた数字である90%を超えることができたか。 ・全国学テ及び市学習状況調査の「ICTの活用」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年より増加することができたか。	・学校評価「学習への満足感」（生徒）に係る質問に対する肯定的な回答の割合は87.7%であり、目標値を下回った。 ・全国学力学習状況調査の「ICTの活用」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年73%から82.0%へと向上し目標値を大きく上回った。 ・指導主事を招聘し、「スクールダッシュボードの利活用」について研修し、ICTの一層の推進を図った。 ・指導主事を招聘し、「学力向上カウンセリング研修」を実施し、本校生徒の実態について研修を深めた。	B	・学びの個別最適化について研究を深め、誰一人取り残されない学びの場を提供する。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの具体的な取組として、学習活動表示カードとタイマーを全クラスに設置し、生徒が現在の学習活動を自覚し、授業により集中して取り組めるようにする。 ・研究推進委員会とは別に新たに学校DX推進部を設置し、ICT機器を適切に管理するとともに、ICTを活用した学び方改革を一層推進していく。
		・学習不安の解消に向けた望ましい家庭学習習慣の定着	①定期テストを活用した勉強の仕方についての指導の充実 ②チャレンジスクールを活用した個別最適化された学習環境の充実。	・学校評価「宿題や復習等の取組」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年より増加することができたか。	・学校評価「宿題や復習の取組」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年66.4%から70.1%に向上し、目標値を大きく上回った。	A	・望ましい家庭学習習慣の定着のためデジタルコンテンツの学習利用を促進する。
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査及び市の学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合が極めて高い。 ○学校評価における「生徒の悩みにしっかりと聞いてくれている」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が極めて高い。 <課題> ○感染症による行動制限がなくなり、行動範囲も広くなるにつれ、対外的なトラブルやSNSによるトラブルが増えている。 ○校務のICT化が進んでいる反面、紙の消費量が減っていない。	・生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実	①Solalームを活用した個別最適化された学習環境の整備及び関係機関との連携 ②「三室中いじめ防止基本方針」に基づくいじめ防止対策の推進 ③校則見直しプロジェクトを通じたエイジェンシーの育成	・学校評価「落ち着いていてよい雰囲気」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加することができたか。 ・不登校生徒数を減少させることができたか。 ・校則を一つ以上改定することができたか	・学校評価「落ち着いていてよい雰囲気」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年82.9%から78.2%となり目標値を下回った。 ・不登校生徒数は昨年とほぼ同数であるが、相談室や関係機関に繋ぐことができた生徒数は20%増えた。 ・生徒が主体となり校則を2点変更した。	B	・全体的に生徒は落ち着いているが、授業や休み時間での心無い発言や放課後の過ごし方等に一部課題がみられる。また自己肯定感の低さも課題である。全ての教員が個に応じた適切な指導ができるよう生徒指導力を高める研修を随時行っていく。
		・校務のICT化による紙の消費量の縮減	①用紙代を学年会計に計上をしていた慣例を廃止し公会計化する。 ②スクリレを活用し、保護者へのお手紙の一部を電子化する。 ③職員内文書については、積極的に裏紙を活用する。	・校務のICT化により紙の購入額を前年比5%以上減らすことができたか。	・校務のICT化により紙の購入額前年1192883円→1165453円(2.3%減)ただし紙の単価が大幅に増額したため、購入箱数で計算すると651箱→425箱(34.8%減)であり、目標を達成したといえる。	A	・スクリレを活用し、学校だより、保健だより、図書だより、給食だより、相談室だより等のデジタル化を進め、（地域回覧板は紙で継続）紙の削減を一層推進する。
3	<現状> ○昨年度、生徒の地域貢献ボランティアへの参加機会を大幅に増やし、学校評価「教育活動を保護者や地域に積極的に公開している」（保護者）「家庭や地域社会と連携し合っている」（生徒）といった質問に対する肯定的な回答の割合が増えている。 <課題> ○市学習状況調査における「地域や社会を良くするために何かしてみたい」に対する肯定的な回答の割合は、86.1%に対して「今住んでいる地域の行事に参加している」に対する肯定的な回答の割合は61.3%であり、差がみられる。	・学校HPやアプリを活用した積極的な情報発信	①地域に開かれた学校づくりの推進 →学校だより、学校HP、安心メール、スクリレによる積極的な情報発信 →学校公開日の日数増	・学校評価における「家庭・地域連携」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年より増加することができたか。	・学校評価「教育活動を保護者や地域に積極的に公開している」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年93.3%から96.2%に向上し目標値を上回った。	A	・スクリレの既読率を上げる取組を工夫して積極的な情報発信に努める。 ・授業参観と学級懇談会をセットで提供し、さらに年2回の学校公開を設定して一層の情報公開に努める。
		・持続可能なスクール・コミュニティの構築と生徒の地域貢献活動の一層の推進	①学校運営協議会を中心としたスクールコミュニティの形成 →竜神祭、避難所設置訓練、ふれあい祭り等の地域行事への参画 ②学校ファームを中心とした地域人材の活用 →地域の農家を指導者とした学校ファームの運営及び物販活動	・全国学テ、市学習状況調査における「地域の行事に参加している」に係る質問項目の肯定的な回答の割合が前年より増加することができたか。	・全国学テ、市学習状況調査における「地域の行事に参加している」に係る質問項目が本年度なくなった。 ・学校評価「家庭や地域社会と協力し合っているか」に係る質問項目に対する肯定的な回答の割合は、前年93.7%から90.9%に減少した。	B	・地域と連携したこれまでの良き活動を継続していくとともに、新しい依頼があれば積極的に受け入れる。同じ生徒ばかりが何度も参加するのではなく、より多くの生徒が広く参加できるよう、ボランティア参加の周知方法を工夫する。
4	<現状> ○ICTの優位性を生かした業務改善が進み、Teamsをはじめとする各種ツールを用いた情報の共有化、作業の効率化が進んでいる。 ○昨年度、授業の余剰時間を計算して3月の2週から午後の授業をカットし、学年末の事務処理時間を確保することができた。 ○計画的年休の取得率の向上、時間外勤務時間の縮減について一定の成果が表れている。 <課題> ○業務量の平準化 ○業務に対する上司や同僚からのサポート体制の確立及び学年の枠を超えた同僚性	・風通しがよく互いに助け合える職場づくり及びキャリアに応じた教職員研修受講の推進	①各主任をリーダーとする業務の進捗管理・支援体制の充実 ②余剰時間を確認し年度末の事務処理従事時間を十分に確保 ③「三室中危機管理チェックシート」を活用した迅速・誠実・アフターケアを体現する危機事案管理 ④キャリアステージに応じた教職員研修の受講を推奨 →当初面談による研修受講奨励及びブラットフォームによる研修履歴の活用	・授業の進捗状況と余剰時間を計画的に管理し、年度末に十分な事務処理従事時間を確保することができたか。 ・危機事案に対し、迅速・誠実・アフターケアを適確に行うことができたか。 ・職員のストレスチェック集団分析得点の向上を図ることができたか。 ・職員が各自のキャリアに応じた自主研修に取り組むことができたか。	・年度末に十分な事務処理従事時間を確保することができた。 ・危機事案に対し、迅速・誠実・アフターケアを適確に行うことができた。 ・職員のストレスチェック集団分析得点では、「上司からのサポート」の項目が大幅に向上した。 ・特別支援教育の認定講習等に積極的に挑戦する教員が数多くいた。また、外部機関を活用し、自主研修に臨む教員が増えた。	A	・カリキュラムマネジメントを推進するとともに、個別最適な学びの実現のために教科会や分掌で確認し合う機会を意図的に設定し、職員間での高め合いにより若手の指導力育成を図る。 ・教師一人ひとりの適性を伸ばしたり校務分掌を遂行したり、今日的な教育課題に対応するために必要な知識を身に付けることは今後益々重要になってくる。市内外の様々な研修について受講奨励を行っていく。
							・夜遅い時間に職員室の電気がまだ付いていることがあり、頭が下がるとともに、働き方改革がもっと必要なのではないかと感じている。